

次世代AISワークショップ関係者が施設見学

海上保安庁主催による「次世代AIS国際標準化のためのワークショップ」が開催され、そのテクニカルツアーの一環としてワークショップ関係者 19 名が 2012 年 12 月 5 日、当研究所を訪れ、主要施設を見学しました。

このワークショップは平成 24 年度シップアンドオーシャン財団海外交流事業として 12 月 3 日から 7 日まで内外の

関係者を招いて開催されました。当研究所の視察は、ワークショップの議論に資するために企画されたもので、海外の関係者 7 名を含む 19 名の関係者が操船リスクシミュレータ、実海域再現水槽、深海水槽の 3 つの研究施設を見学しました。施設での説明はすべて英語で行われ、各施設では質疑応答も活発に行われました。



深海水槽で



操船リスクシミュレータで

東京大学の学生が訪問、ミニ講座と施設見学会

東京大学工学部及び大学院工学系研究科の学生の方々が 2012 年 12 月 6 日、当研究所を訪れ、ミニ講座を受講するとともに、400 m 水槽など 5 つの実験施設を見学しました。

来所したのは総勢 21 名。ミニ講座では、当研究所 EEDI プロジェクトチームの川島英幹チーム長補佐と運航・

物流系運航解析技術研究グループの吉村健志主任研究員が EEDI（エネルギー効率設計指標）ならびに海難事故解析をテーマとした講義をそれぞれ行いました。

その後、施設見学会に移り、操船リスクシミュレータを皮切りに 400 m 水槽、船用機関、氷海水槽、実海域再現水槽を順次見て回りました。



ミニ講座風景



操船リスクシミュレータで